

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202239		
法人名	医療法人 光臨会		
事業所名	あんしんホーム		
所在地	広島市西区庚午中二丁目11番15号 (電話) 082-507-6600		
自己評価作成日	平成30年1月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202239-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年1月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療機関が営むグループホームなので、系列の荒木脳神経外科病院のバックアップを受けて健康管理や体調不良時の対応などでは、特に信頼をいただいています。 日々の生活では、活動性を重んじながら楽しみ、喜びの多い生活の提供を心がけており、中でも外出行事は頻繁に行い、力を入れています。 初詣、梅見、お花見、大衆演劇観覧、マツダスタジアムナイター観戦、宮島紅葉狩り日帰り旅行などなど、入居者さまの希望に応じて、沢山の遊びを実現させることができました。 これらの大掛かりな外出以外にも、毎日の散歩や日々のお買い物はもちろん、ちょっとした外食やカフェなどにもちょくちょく出かけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>交通至便な住宅街の中、長年培った地域との馴染み深い関係性や、母体である医療機関との安心・安全な連携が築かれている。とりわけ、外出行事など季節を味わうイベントを豊富に企画し、暮らしを共にする中で楽しみや希望を取り入れた個別ケアに重点を置き、その人らしく過ごせる支援に努めている。利用者の日々の様子や心に響く出来事などをタイムリーに綴った「あんしんあったか通信」を毎月発行し、家族他へ届けている。看取り後の家族などへの対応として、グリーフケアマインドに配慮した支援にも取り組んでいる。年二回の家族会や多方面からのボランティア来訪をはじめ、中学生の職場体験・実習生の受け入れなど社会との関わりを大切にしながら、地域に根差した幅広い情報発信の拠点としても更にスキルアップや環境整備に尽力している事業所である。</p>

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、毎朝礼時には入居者と共に復唱する。 また、理解に繋げる目的でアンケートや意見交換を不定期に実施している。	事業所理念を定め、毎朝礼時に利用者と共に唱和し職員間で意識の統一を図っている。半期毎に目標を設定し、その意図するところを見つめ直し振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事、寄り合いサロンへの参加や、近隣中学の職場体験実習の受け入れを毎年実施している。 また、町内会からの依頼を受けて、防災無線受信機を設置している。	日常的な散歩などで交わす挨拶に加え、とんど祭りなど季節の町内会行事・地域のふれ合いサロンに参加するなど長年培った地域との絆を深めている。中学生の職場体験・実習生の受け入れなど地元根差したネットワークづくりに注力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携し、認知症アドバイザーとしての活動を年に数回行っている。 法人としても、母体病院では毎月介護・健康講座を開催しており、年に1回の認知症についての講座では、講師を受け持つ。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、行事等の取組み紹介を中心に、出席者から諸々の意見聴取を行っている。 会の活性が低下気味で、少し違った取組みを考える必要性も感じる。	隔月開催の当会議には、家族・地域代表者・行政代表者の参加を得て、状況報告・行事報告並びに意見交換がなされている。今後の取組みとして、新たな見解や展望につながるテーマづくりやアイデアについて、視野を広げようとする姿勢が伺える。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターとの連携では、困難事例の受け入れ、地域の認知症啓蒙活動など、十分な関係性が築けている。 また市町とは、母体病院を中心とした関係性の構築が強い。	地域包括支援センター職員がほぼ毎回、運営推進会議に参加し情報交換を行い地域性豊かな協力関係を築いている。職員が認知症アドバイザーとして交流の輪を広げたり、啓蒙活動にも参加しオレンジプランに関する積極的な取組みを継続している。	

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	適時的な介助、援助を行える為のセンサー機器等を活用し、拘束の必要性を抑える取り組みに勤しんでいる。半面、転倒事故予防との兼ね合いが難しく、苦慮している。	安心・安全な生活保持のためにも、個々のニーズに合わせながら身体拘束の廃止に向けたケアに取り組んでいる。不具合を未然に防ぐ工夫に心がけ、なるべく制約を加えない支援に留意している。ケースカンファレンスを行い職員間で研鑽を積んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は誰でも起こり得るものとして、年間部内研修のテーマとしても盛り込み、理解の向上に努めている。アンガーマネジメントの外部研修等にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を活用している入居者もあり、実務の中で意義や価値を実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学时より、当事業所の契約事項や方針を細やかに伝え、深い理解を得るよう努めている。事前に十分な共通理解を得ることが、トラブルを防止する有効な手段だと感じる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活のご意見やご要望は、なじみの担当介護職員といつでも相談し合える。また、相談窓口の日として管理者が在所する土日を月に2日程度設け、お勤めされているご家族のご意見やご要望も受け付け易くなるように努めている。	面会時・イベント時など家族とのコミュニケーションを図る機会を設け、話しやすい雰囲気づくりや傾聴に心がけている。年二回の家族会で食事を共にしながら、忌憚のない意見を伺い、各々の心に寄り添った支援になるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の朝礼と月に1度のミーティングを中心に、安全管理意見の交換会、不定期でリーダーミーティングと、幾つかの機会を設けつつ、過度な時間的負担とならないよう努めている。	毎朝礼時や毎月のミーティングなどで話し合い、職員間で意見交換を行っている。ライフワークバランスを考慮したシステムの導入や職場環境の整備など、サービスの質の向上につながる取り組みや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度より人事評価の仕組みを刷新したり、本部との関わり強化に取り組んでいる最中。 以前から行う定期的個人面談や、年に1度の全職員リフレッシュ5連休取得の取り組みは継続中。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の部署内研修を継続すると共に、母体病院での専門技術研修の参加機会も強化しつつある。 また、看護職員や各種療法士による実地技術指導なども今年度より機会を多く持てるようになってきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が市内で活動する同業者の交流会役員を務め、介護職員と共に他事業所への見学や交流の機会を図っている。 同活動で、複数事業所相互の職場実習なども画策中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事業所見学、個人面談、担当者会議など、複数回の話し合う機会を持ち、本人の要望や不安事項を汲み取るよう努めている。 日々の援助の基となるものであり、今以上の向上を狙いたい。		

自己評価	外部評価	項 目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談や電話相談などを通して相互の意見をすり合わせて行く他、要望調査のシートを用いて家族が気兼ね無く不安や要望を伝えられる機会を多く作るように努めている 特に入居初期は本人家族共に様々な希望や分からない事が多いので、一つ一つ真摯に向き合うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学、入居相談から始まって意見聴取を行う中で、在宅が継続出来るヒントを見いだし、他事業種サービスや他事業所の利用に結びついた例もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事を共に取る、家事を共に行う等々生活を共に過ごし、苦楽を共感出来る関係性を大切にしている。 しかし、入居者の重介護化により、生活色も少し薄れてきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会、外出に制限を設けず、気楽に本人と家族が触れ合え、絆を保ち続けられるように配慮している。 外出行事などでは家族にも誘いをかけ、同じ時間を共有出来るように計らっている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例えば知人の見舞いに付き添う、あるいは前住居近隣の集会へ参加する援助を行うなど、近しい家族だけでなく友人やその他関係者と、本人が望む関係性なるべく維持されるよう援助に努めている。	演奏ボランティア・アレンジフラワー・舞踊など多彩な訪問があり、利用者の楽しみとなっている。昔ながらの知人との旧交を温めたり懐かしい関係性を大切にしながら、日々の活性化につなげケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席配置をはじめ、相性を考慮した生活様式の組み立てを行い、社会性を保った入居生活が継続できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院による退去やご逝去後のお付き合いなど、自然と継続されるケースが多い。特にお看取りをお手伝いの際には、ご焼香に伺ったり、お手紙のやり取りがしばらく継続される。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望む生活スタイルや希望を本人に直接訊ねて、援助計画に反映するように心がけている。 認知症高齢者から心底の希望を引き出すのはとても難しくはあるが、一人一人の自己実現に向け、表面部分に留まらない思いの汲み取りに取り組んでいる。	日々の営みの中で、何気ない会話やボディメッセージから意向や思いを汲み取り、記録に記し個別ケアに活かしている。意志表示しにくい利用者には家族からの聞き取りやバックグラウンドを加味しながら、行き届いた支援に活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴や趣味趣向をシートに記載してもらい、事前に情報を募っている。 日々の生活の中で知り得た細かな情報をカンファレンス時に持ち寄り、次回のケアプラン作成に活用している。 日々退屈になりがちで、防止の為にとても有効。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の介護記録を中心に、アセスメントツールを使用して状況の把握を適時行い、定期的なカンファレンスにおいてはスタッフ一人一人の意見を出し合い統合している。		

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>生活の質を向上させる点を念頭に、いれ、介護スタッフを中心に、必要性や本人の要望を叶えるためのアイデアを出し合っている。</p> <p>最近では多職種との連携を持つ機会も増え、これまで以上に多視点を持った計画の作成に取り組んでいる。</p>	<p>担当スタッフが知り得た情報やフェイスシートなどを基に、利用者・家族・医療関係者と協議しケアプランを作成している。その人らしく生き生きと暮らせるための見解を広げ、ニーズに沿った介護計画づくりに取り組んでいる。より気持ちよく過ごせる要素も考慮し、四か月ごとの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>計画と日々の記録を連動させて記録し、積み重ねを基に定期カンファレンスで評価やスタッフ個々の意見、アイデアを交換し合って次回計画作成に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>例えば入居前から好きだった趣味の教室に継続して通えるように準備を整えたり、通常は関連のない事業種との連携を整えたりと、個別のニーズに応じて柔軟に取り組む努力を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内のふれ合いサロンへ通う入居者や、近隣の美容院の理解を得て通う利用者など、地域の中で暮らす土台を少しずつ作っている。</p> <p>まだまだ開拓の余地は多い。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前までのかかりつけ医に継続してかかることも、母体病院の医師による診療を受けることも自由に選択できる。</p> <p>専門的医療を要する際には、母体病院を中心とした地域の医療ネットワークも活用でき、医療との連携を図っている。</p>	<p>看護面のサポートや医療機関との連携に恵まれ、家族ほかの安心につながっている。感染症予防対策・服薬管理に留意し、AEDの設置及び研修により、緊急時の対策も整っている。必要であれば通院同行支援も職員が担い、家族との情報共有を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	所属の看護職員を中心に、医療面についての助言を適時受けられる体制を整えている。 看護面のサポートや、医療機関受診時の付き添いなど、介護スタッフでは及びにくいケアについて、大変助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に病院があり、多くの場合はここで入院加療を行う為、病院医療スタッフとの連携は強い。 他医療機関との連携が必要な時にも、同病院のMSWが協力してくれるので、非常に円滑。 医療法人系列のGHとして、大きな強みに感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者に対して、相談時からインフォメーションを行っており、希望を汲み出せるよう努めている。 また必要時には医師を交えた方針の相談を行い、当施設で行える事の確認や、家族との理解を深め合える努力をしている。	ターミナルケアに関する指針があり、重度化した場合にはその都度よく話し合い、ニーズに合わせた支援を行っている。医療機関との連携も深く、チームケアの充実を図り最期までその人らしく過ごせるよう職員間で意識を高めている。看取り後の家族にはグリーフケアマインドに配慮した支援にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とその取り扱い講習を始め、緊急時の対応について学習の機会を設けている。 研修機会は同法人病院の主催によるものが多く、より専門性の高い研修を得られている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年夜間を想定したの避難訓練を行うことと、防災センターの防災宿泊研修に全職員の履修を目指して順に受講を続けている。 しかし地域住民との相互協力体制の構築はまだまだ向上の余地がある。	年二回、消防署員立ち会いのもと、防災避難訓練を実施している。様々な想定で避難経路や防災備品などの確認を行い、年一回マニュアルを見直し、職員間で災害時に備えた意識を高めている。災害時協力対策として地域とのより深い関係構築にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親密さと同時に敬いの気持ちが両立出来るように、また、画一的、事務的なケアサービスに陥らぬようにスタッフ間で留意し合っている。	普段から人生の先輩として敬い、尊厳を護り節度を保ったケアを心がけている。声掛けや接遇に配慮し、個々のライフスタイルや生活リズムに合わせた健やかな生活を大切にしている。関連研修などにも積極的に職員が参加しスキルアップに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	即日は難しくとも、家族や知人との協力を得ながら希望を叶えられるよう調整を行う。 認知症であっても喜びや自発性を保ち、一人の人間として生きて欲しい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースや生活リズムを尊重しつつ、集団生活としてのルールに則ることも場合によっては必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近隣の美容室に通ったり、洋服を買いに出かけたり、ネイルを整えたり、美容も気軽に楽しめるように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の宅配を利用しながら、材料の下ごしらえ、調理をスタッフと入居者が協同して取り組む。 重介護化が進む中、炊事を共有することが難しくなっているが、少しでも生活の主体を入居者に感じてもらえる為に努めている。	昼・夕食は職員による手作りで、栄養バランスに配慮した食事提供をしている。各々の役割や生活活動として利用者の出来ることを共に行い、和やかな会話を交え楽しめる工夫を重ねている。外食ツアーの企画も多く、女子会・男子ごはん等のアイデアが豊富で一緒に楽しむ催しとなっている。	

自己評価	外部評価	項 目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の形態や食器を工夫して食が進みやすい状況作りに務めている。特に水分量の確保については、利用者個別で容器やタイミングによる進み具合を試しつつ、毎日十分な量を確保出来るように努力を続けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日3食後の口腔ケアを励行し、丁寧な援助を行っている。また、希望者には週に一度訪問歯科の口腔ケアを受けてもらっている他、年に一度口腔ケアに関わる部内研修を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄時間や前兆の把握に努め、極力トイレで気持ちよく排泄が行えるように心がけている。利用者一人ひとりにパターンや特徴があり、タイミングを逃さないように常に注意し続けることが重要。どんなに重度化しても、トイレには行く。	個々のパターンやタイミングを見計らい、トイレ誘導を行っている。夜間対応としてポータブルトイレも活用している。体調コントロールを含め、水分補給や自然な排泄に努め自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃からヨーグルトや牛乳といった便秘解消に効果的な食品を摂取する機会を必ず設けたり、毎日散歩に出て少しでも体を動かすなど、予防に努めている。個別にどうしても便秘になってしまった場合は、医師と相談の上で薬剤を用いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	2年前に浴室の改装工事も行いスペースを広げた他、浴槽にリフトを設けて重度化にも対応した。時間帯や人数によって叶え切れない部分もあるが、個人の希望に沿えるところは浴っている。	概ね週2～3回の入浴で、その日の体調に合わせてながら、なるべく要望に沿った柔軟な対応をしている。時にはシャワー浴・足浴・清拭ほかでリラックス効果も取り入れ、世間話などを交わしながらコミュニケーションの場として支援し、日帰り温泉にも出かけて楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項 目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	習慣や希望に応じてある程度自 由な生活サイクルの営みを援助し 、安息できるよう居室環境に配 慮している。同時に、昼夜逆転し たり活動量を低下させない為、 極力自然な流れで日中活動する 状況作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	常に確実な服薬には十分な注意 をしており、同時に処方の内容が 確認できるように身近に整えて いる。また看護職員と、隔週の 訪問診療において逐次医師との 相談を持ち、過不足の無い服薬 を行うよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	例えば習い事を入居後も継続し て通えるように段取りを整え たり、町内の寄り合いサロンへ の参加を援助したり、生活の充 実を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	日々の買い物、散歩、近所のお 地藏さん参りなど、日常の外 出支援は極力細やかに取り組 んでいる。また年に4～5回、 ナイター観戦や宮島日帰り旅 行などの外出行事も積極的に 行い、行き先や内容の希望は 利用者からのリクエストを重 視して企画している。	近所の教会での花見に加え縮景 園・アジサイ寺で花を愛でたり 四季折々の風情を味わい、美 術館・水族館では癒しの時を 楽しむなど外出行事が充実し ている。行きたいところ、食 べたいものなどの要望に合わ せ出来る限りの支援に取り組 んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	多くのご家族に理解を頂き、 利用者本人が数千円程度の現 金を自分で持ち、散歩中の買 い食いや、外食時の支払いを 自身で行うなど、社会性を保 つために大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目(2階及び3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	知人や家族に電話をかける支援をしたり、年賀状を始めとした郵便のやり取りを援助したりしている。近年は携帯電話を所持する方も増え、その操作をお手伝いする場面もよく見られる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	認知症状の度合いや個人の好みによって合う環境が大きく異なり、共用部においては万人向けとは言い難いかもしれないが、個人の居室においては、好みや心身の状態に応じた環境整備に努めている。	元、寮であった建物を福祉施設として改装し、畳敷きの談話室やスタッフルームは職員の休憩時にも活用できる造りである。特に日当たりが良い三階も含め、各階とも広くゆったりとしたリビングに利用者が集い、穏やかな談笑のスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席配置に配慮し、入居者同士の関係性をとても重視して生活環境を整えている。入居者同士の繋がりを互いの良い刺激と出来れば、影響を与え合う効果はとても大きく感じる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく自宅で使っていた馴染みのある物や写真を居室に配置して、自分だけの空間作りを行っている。やはり入居してからの生活年数が長いほど、個人独特の居室の色合いや味わいが濃くなる様に感じる。	それぞれが落ち着いて過ごせるよう、お気に入りの品や写真などを飾り、家庭に近づけた雰囲気づくりに配慮している。シンプルな中にも個性を活かし、その人らしく暮らし続けられるような設えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部ではトイレなど区画名称の掲示、動線の確保を考慮し、個人の居室ではそれぞれの心身状況に応じた環境整備に取り組んでいる。		

V アウトカム項目(2階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあんしんホーム

作成日 平成30年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活性が低下している。	多種多様な立場の方々の参加を促し、日々のサービス向上に繋げる。	フランクで参加意欲が湧く企画を設ける。 例) 茶話会、介護セミナーなど	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。